第２章　1990年度普及・研究・資料整理活動

1　資料整理

本年度は次の６件の発掘調査の資料整理を行った。

①　津島岡大１次調査（学生部男子学生寮予定地）

出土遺物の実測・トレース・写真撮影，遺構のトレース

②　鹿田５次調査（医学部附属病院管理棟）

出土遺物の一部復元，出土種子類の採集

③　津島岡大５次調査（大学院自然科学研究科棟）

出土遺物の一部写真撮影，出土種子類の洗浄・採集

④　津島岡大６次調査（工学部生物応用工学科棟）

出土遺物の一部復元・実測，出土種子類の洗浄・採集

⑤　津島岡大７次調査（工学部情報工学科棟）

出土遺物の復元・実測・トレース，遺構のトレース

2　分析依頼

①　出土種子同定…大阪市立大学理学部教授　粉川昭平

津島岡大遺跡（３次調査）：縄文時代晩期貯蔵穴内出土種子・縄文時代後期層出土種子
古代河道内出土種子

②　灰像分析・炭化物の同定…東京大学総合研究資料館　松谷暁子

津島岡大遺跡（３・５次調査）：縄文時代後期貯蔵穴内出土土器内炭化物

③　木製品樹種同定…農林水産省森林総合研究所　能城修一

鹿田遺跡（１・２・５次調査）：弥生時代中期～中世の井戸・溝等出土木製品他

津島岡大遺跡（４・６次調査）：古代溝出土杭群・縄文時代後期河道出土自然木他

〃　　（５次調査）：縄文時代後期貯蔵穴出土竪櫛

3　刊行物

①　岡山大学構内遺跡調査研究年報７　1989年度　　1990年11月20日　発行

②　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報　第４号　　1989年７月　発行

③　　〃　　第５号　　1990年３月　発行

※なお,1990年度までの刊行物については附表３・４で一覧にして挙げている。

4　調査員の活動

（1）資料収集活動

山本悦世

＜木製品の科学的保存処理法について＞

元興寺文化財研究所

＜中世集落遺跡について＞

広島県立博物館

＜中近世土器を中心に＞

福岡市博物館他

＜研究会参加＞

考古学研究会総会・中四国縄文研究会

中世土器研究会　他

松木武彦

＜古墳時代の武器・武具を中心に＞

田布施町教育委員会

＜中近世土器を中心に＞

福岡市博物館他

＜研究会参加＞

考古学研究会関西例会第49回例会

第29回埋蔵文化財研究集会

日本考古学協会大会　他

土井基司　科学研究費 奨励研究(A)交付

＜木製品の科学的保存処理法について＞

元興寺文化財研究所

＜中予地方の横穴式石室について＞

松山市立埋蔵文化財センター他

＜中世集落遺跡について＞

広島県立博物館

＜中近世土器を中心に＞

福岡市博物館他

＜研究会参加＞

考古学研究会総会，九州・釜山研究会

中四国縄文研究会，日本考古学協会大会

中世土器研究会，九州史学会

古墳文化研究会　他

（2）資料報告他

土井基司　「半田山城測量後記」『岡山大学構内遺跡調査研究年報　7』1990

松木武彦　「前期古墳副葬鏃の成立と展開」『考古学研究』148号 1991

（3）研究発表

山本悦世　中四国縄文研究会　「岡山大学構内遺跡出土の縄文土器」

5　日記抄

1990年

4月 2日　総合大学院自然科学研究科棟共同溝・検水槽発掘調査打ち合せ

4月 3～21日　〃　調査（担当：若林）

4月 4日　第1回月例会議
・今年度活動計画案　・各調査報告
・半田山城測量結果報告 他

5月 1日　学生合宿所ポンプ槽発掘調査打ち合せ

5月 2日　第2回月例会議
・各調査報告 他

5月 7～16日　学生合宿所ポンプ槽発掘調査（担当:絹川）

6月 6日　第3回月例会議
・調査報告　・展示会について 他

6月11日　運営委員会開催

6月22日　収蔵庫増築・展示室完成パーティー

6月27日　管理委員会開催

6月29日　展示会打ち合せ

7月12日　第4回月例会議
・人事について　・運営委員会，管理委員会報告 他

7月16日　岡山大学博物館学実習開始

7月20日　センター報第4号入稿

7月31日　若林退職，絹川異動（考古学研究室へ）
センター報第4号発行

8月 1日　第5回月例会議
・展示会について 他

8月22日　運営委員会開催

8月22～23日　資源生物科学研究所試掘調査（担当：土井）

9月 5日　管理委員会開催

9月 7日　年報7入稿

9月10日　岡山大学博物館実習終了

9月11日　第6回月例会議
・調査報告　・展示会について
・管理委員会報告 他

9月28日　アイソトープ総合センター（RI）・福利厚生施設試掘調査打ち合せ

10月 3日　第7回月例会議
・調査計画について
・展示会について 他

10月15～18日　RI試掘調査開始（担当：山本）

10月22日　RI発掘調査打ち合せ

10月29日～11月16日　福利厚生施設試掘調査（担当：土井）

11月 1日　松木，文学部助手として赴任

11月 1～ 2日　展示品搬出，会場準備

11月 3～ 4日　展示会開催

11月 5～ 6日　展示品搬入，片付け

11月 7日　第8回月例会議
・各調査報告　・展示会について 他

11月 8日　RI発掘・福利厚生施設試掘調査打ち合せ

11月 9日　大橋かおり退職

11月19日　RI発掘調査打ち合せ

11月20日　RI発掘調査開始(担当:松木,山本,土井)
年報7発行

12月 5日　第9回月例会議
・各調査報告　・木器処理施設について
・展示会のまとめ 他

12月17日　木器処理施設打ち合せ

12月28日　御用納め

1990年

1月 4日　仕事始め

1月14日　第10回月例会議
・調査報告　・木器処理について
・予算等について 他

1月22日　木器処理施設打ち合せ

2月 6～ 8日　木器樹種鑑定サンプル採取（能城）

2月 7日　運営委員会開催

2月 8日　第11回月例会議
・調査報告　・木器処理施設について
・予算について　・運営委員会報告 他

2月20日　管理委員会開催

3月 6日　第12回月例会議
・調査報告　・来年度活動計画
・管理委員会報告 他

3月18日　センター報第5号入稿

3月28日　RI発掘調査予算打ち合せ

3月31日　高重センター長辞任
センター報第5号発行

6　1989年度までの遺物収蔵量および保管施設

（1）遺物収蔵量（表2）

1991年3月31日における本センターの遺物収蔵量は，鹿田遺跡1・2次調査（医学部附属病院外来診療棟・NMR-CT室）：724箱，同3・4次調査（医療技術短期大学部校舎他）：134箱，同5次調査（医学部附属病院管理棟）：119箱，同6次調査（アイソトープ総合センター予定地）：30箱，津島岡大2次調査（農学部合併処理槽・排水管）：18箱，同3次調査（学生部男子学生寮予定地）：48箱，同5次調査（大学院自然科学研究科棟）：89箱，同6次調査（工学部生物応用工学科棟）：63箱，同7次調査（同情報工学科棟）：13箱，その他の発掘及び試掘・立会調査（分布調査含む）：17箱，総計1255箱を数える。詳細は表2に挙げた。1箱の容量は約30ℓを目安としている。また，木器の中で大型水槽に保管のものについては1箱に換算して計算している。

（2）管理・保管施設

本年度の本センターの使用施設としては，津島地区に管理施設（面積は100㎡）と，収蔵施設（延面積は300㎡：1・2階各150㎡）とがある。また，鹿田地区では連絡所として，旧混合病棟の東にある旧管理棟の二階の一室（約25㎡）があり，ここには，原則として，職員1名が交代で常勤する形をとり，鹿田地区の立会調査等に対応した。

収蔵施設は，主として，1階を遺物等の洗浄・保管室ならびに器材置き場として，2階を常設展示室（約18㎡）・写真撮影室（約10㎡）・遺物整理室（約117㎡）として使用している。

今年度は昨年度と同じ施設で変化はなかったが，使用総面積は，管理施設100㎡・収蔵施設300㎡，鹿田地区で約25㎡，合計425㎡であった。（土井）

表2　埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所属	種類	地区 調査名称	箱数（1箱：約30ℓ） 総数	土器	石器	木器	その他	サンプル	備考 主要時期・特殊遺物	文献
医病	発掘	鹿田1次調査 （外来診療棟）	608	491	6	60	1 ガラス 鉄器 銅鏃 他	50	弥生中期～中・近世 短甲状・櫂状木器等	⑦
〃	〃	鹿田2次調査 （NMR-CT室）	116	90	3	20		3	弥生後期～中世 田舟・木簡等	〃
医短	〃	鹿田3次調査（校舎）	131	36		90		5	古代～中世	⑩
〃	〃	鹿田4次調査（配管）	3	2				1	古代，鹿角製品	〃
医病	〃	鹿田5次調査 （管理棟）	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	⑧
RI	〃	鹿田6次調査 （アイソトープ総合センター）	30	29.5	0.5				中世，青銅製鋺	⑰
農	〃	津島岡大2次調査 合併処理槽 排水管	18	7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	④
学生	〃	津島岡大3次調査 （男子学生寮）	48	30	6	2		10	縄文後期～弥生，古代～近世 石製指輪，蛇頭状土器片	⑥ ⑧

所属	種類	地区 調査名称	箱数（1箱：約30ℓ） 総数	土器	石器	木器	その他	サンプル	備考 主要時期・特殊遺物	文献
学生	発掘	津島岡大4次調査（屋内運動場）	1	1					縄文晩期～弥生前期〈試掘調査遺物を含む〉	⑥
大自	〃	津島岡大5次調査（自然科学研究科棟）	89	55	2			32	縄文後期～弥生，古代～近世 耳栓・木製櫛（縄文）	⑪ ⑰
工	〃	津島岡大6次調査（生物応用工学科棟）	63	30	1	22		10	縄文後期～近世 人形木器，アンペラ	⑪ ⑭
〃	〃	津島岡大7次調査（情報工学科棟）	13	7	1			5	縄文後期～近世	⑪
医病	試掘	鹿田 駐車場	1	1					弥生～中世	⑤
学生 教育	〃 〃	津島北 男子学生寮 〃 研究棟	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	〃
大自	〃	〃 自然科学研究科棟	1	1					縄文後期～弥生前期	〃
事	〃	津島（土生） 外国人宿舎	1	1					縄文～中世	⑧
理	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					中・近世	〃
教養	〃	津島南 〃	0.7	0.7					縄文・中世	〃
工	〃	津島北 校舎	1	1					〃 ～近世	⑪
農薬	〃	津島南 動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生；中・近世	〃
事	〃	〃 国際交流会館	0.3	0.3					中世	〃
大自	〃	津島北 合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑭
学生	〃	津島南 学生合宿所	0.5	0.2				0.3	中世	〃
教育	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	〃
図	〃	〃 図書館	0.8	0.8					古墳～中世	〃
学生	〃	津島南 学生合宿所ポンプ槽	0.4	0.4					縄文～中世	⑰
資生	〃	倉敷 資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	〃
RI	〃	鹿田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	〃
事	〃	津島北 福利厚生施設	0.4	0.4					弥生？～中世	〃
全学	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	①
〃	〃	'84年度	1	1						②
〃	〃	'85年度	1	1						⑤
〃	〃	'86年度	0.5	0.5						⑥
〃	〃	'87年度	0.5	0.5						⑧
	分布	'89年度 三朝・本島	0.3	0.3						⑭
総箱数			1255	878.9	21.8	214	1	139.3		

※文献番号は附表3，4に対応する。文献⑰は本年報8を指す。

7　展示会

今年度は，構内遺跡の発掘調査の成果を紹介する第２回目の展示会を鹿田地区で行った。昨年度，津島地区で行った第１回目の展示会が，非常に好評であったことや，鹿田地区が著名な鹿田遺跡に当たり，最初の発掘調査から，豊富な内容をもつ多くの遺構・遺物が出土していることから，現地での展示会開催を求める声が強くなった。そこで，1990年度は前半期に発掘調査の予定がなかったことから，11月３～４日の鹿田祭に合わせて「第２回岡山大学キャンパス発掘成果展」を行うこととなった。

当日は，休日に当たっており，職員の方の見学が少なかったのが残念であるが，総計174人の見学者があった。展示内容については，概略を以下に簡単に記す。

「第２回岡山大学キャンパス発掘成果展」　1990年11月３～４日(9:00～16:30)
岡山大学医学部基礎医学棟２Ｆ

【企画展】　**『まつりー井戸・墓・祈りー』**
祭祀的要素の強い遺物に注目し，特に井戸・墓などを中心に，時代を追ってその変化を考えた。

主な展示：構内遺跡の調査から出土した遺物を中心に，出土状況の写真パネルや復元模型を加えてより分かりやすい展示を目指した。その中で，鹿田遺跡に重点を置いたため，中心は弥生時代から鎌倉時代となった。

＜墓＞　弥生時代の壺棺と壺棺内出土の乳歯
鎌倉時代の人骨と副葬品

＜井戸＞　弥生～鎌倉時代：各時期の井戸から出土した土器
弥生時代：桃核
古墳時代初頭：武器形木製品
短甲形木製品
井戸の復元模型
平安時代：墨書土器・大形の井戸枠

展示会光景

平安時代末～鎌倉時代

：白磁碗・木製品

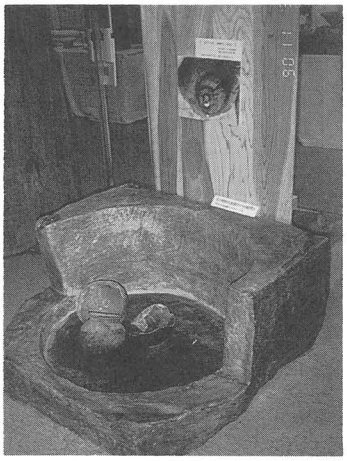
種子類（炭化米・瓢箪・瓜等）

井戸の復元模型と井戸の底から出土した牛頭骨

＜その他＞ 縄文時代：耳栓・リング・蛇頭部土器等

弥生時代：器台・分銅型土製品

平安時代：人形木製品・馬骨



【鹿田遺跡コーナー】

主な展示：発掘調査成果から鹿田遺跡の性格を特徴づける遺物・写真を展示

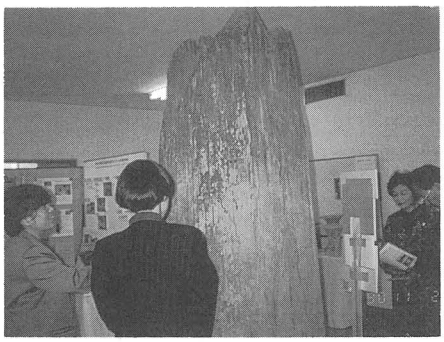
製塩土器・土錘・ガラス滓

※　ビデオ上映

『まつりーのぞいてみた井戸の世界ー』

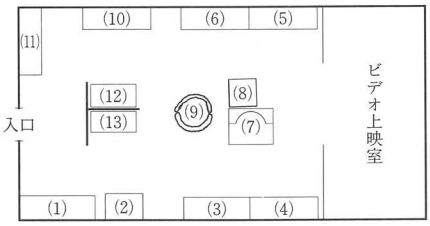
『弥生土器を作る』

『縄文・弥生の食生活』



展示会光景

今回の展示会も多くの方々の協力を得て開催することができた。ここで列記して深謝の意を表したい。岡山県古代吉備文化財センター（百間川遺跡群発掘調査現場の方々），総社市教育委員会社会教育課，岡山大学医学部用度係，同事務局施設部，そして，中山沃先生をはじめ，同医学部生理学教室の方々，並びに小田嶋梧郎先生（同歯学部）。この他にもたいへん多くの方々のお世話になった。残念ながら全てを挙げられないが深く感謝している。　（山本）



【墓コーナー】
(1)　弥生時代の壺棺類
(2)　鎌倉時代の人骨
【井戸コーナー】
(3)　弥生時代
(4)　古墳時代初頭
(5)　平安時代
(6)　平安時代末～鎌倉時代
(7)　古墳時代初頭の井戸復元模型
(8)　鎌倉時代の井戸復元模型
(9)　平安時代の井戸枠
【その他コーナー】
(10)　器台、分銅形土製品
(11)　縄文時代
【鹿田コーナー】(12)
【センターの仕事】(13)

図24　展示会場見取図

第３章　1990年度埋蔵文化財調査研究センター活動のまとめ

本年度は，調査研究員の減少によって，かなり厳しい１年であった。

そうした中ではあったが，第２回展示会を鹿田地区で開催することができた。前回同様，学内外の多くの機関，個人にお世話になった。ここで改めて感謝したい。また，センター報も年２回発行が定着した。しかし，立会調査の連絡不徹底など，埋蔵文化財に対する理解はまだ十分とは言えない。今後，一層努力して啓蒙広報活動に取り組んでいかなければならないだろう。

発掘調査は，大学院自然科学研究科棟本体部分調査に隣接する共同溝・検水槽部分を調査し，本体部分で確認された微高地の広がりが予想外に小さいことがわかった。ついで，以前の試掘調査で低地部と予想されていた情報処理センター予定地が，福利厚生施設予定地の試掘調査によって，南から続く微高地上に位置する可能性が高いこともわかった。津島地区構内の微地形がかなり複雑であり，調査の進展によって，常に認識を改めていく必要を強く感じた。また，アイソトープ総合センターの調査では，鹿田遺跡の中世における周縁地区の状況をつかむ良好な資料を得ることができた。今後の調査の進展によって，さらに多くの成果があがることを期待している。一方，分布調査は今年度中断されたものの，今まで調査の及んでいない倉敷地区で試掘調査を実施し，鹿田，津島両地区以外の構内の状況を知る資料がえられた。

自然科学的分析では，能城氏に，鹿田遺跡と津島岡大遺跡出土の全木製品を樹種鑑定して頂いた。津島岡大遺跡については，来年度刊行予定の『津島岡大遺跡３』（男子学生寮）の中で発表される予定である。また，出土種子，木製品については，半田山特別研究において，津島岡大遺跡の今までの成果をまとめた。さらに，鹿田遺跡の井戸出土種子を中心に，その意義について附編でまとめている。永年の懸案だった木器処理についても，木器処理施設が来年度設置されることが決定され，外注分については，事務局との話し合いで，来年度優先的に取り組むことが確認された。本年度は自然科学的分野が大きく前進した年といえよう。

今年度は少人数ながらも，木器処理をはじめとする，いくつかの懸案を解決することができた。少しずつではあるが，調査研究活動での成果もあがってきている。しかし，新たな課題もでてきた。上述のように，調査の進展によって認識が刻刻と変化しているのが実態であり，かなり以前の試掘調査時の認識とは異なっていることの方が多い。しかし，工事予定が未定のまま試掘調査を行い，既に数年以上経過した例もいくつかある。これは今後，大きな問題に発展していくかも知れない。大学全体の将来計画にも影響を与える問題であり，慎重に対処していく必要があろう。ともあれ，来年度も今年度同様に苦しい運営が予想されるが，各人が奮起して努力していかなければならないだろう。　（土井）